

テーマ:

# トマト栽培「いいこ」プロジェクト

広島県東広島市立  
御園宇幼稚園  
住田 淑江 先生  
青木谷 寛子 先生

## この活動の特徴

### 「凛々子」活用のポイント①

ペアで1本の苗を育てることで  
責任感と植物に対する  
思いやりが育つ！

### 「凛々子」活用のポイント②

地域の方の協力により  
充実の栽培活動  
が実現！

### 「凛々子」活用のポイント③

農業高校生との  
クッキング活動で  
互いに学び合う！

## 活動のねらい






- 苗の生長を間近で観察し、苗の変化や発見したことをクラス全体で共有することで、知的好奇心を育む。
- 責任をもって水やりをしたり、声をかけ合ったりしながら世話をすることで、責任感や植物に対する思いやりの気持ちを育む。
- 自分で育てたトマトを収穫し、料理をして食べるなどの一連の活動を通して、命の大切さや栄養の重要性を学ぶ。

## 活動の概要と流れ

対象学年 : 5歳児(70名)

実践期間 : 4月～7月

時期	学習活動
4月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の方を講師に招き、トマトに関するお話を聞く。</li> </ul> 苗を観察した後で、ペアを組んで2人で1本の苗をプランターに植える。 
5月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近隣の休耕田を借りて、畑にも苗を植える。地域の方に植え方を指導いただきながら、多くの方に協力してもらっていることを学ぶ。</li> </ul>
随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎日ペアでプランターに水やりをしながら、生長のようすを観察する。クラス全体でトマトの変化や発見したことを共有する。</li> </ul> 
6月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プランターのトマトを初収穫。</li> </ul>
7月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近隣の広島県立西条農業高等学校生と一緒にクッキング活動を行う。</li> </ul> 

## ペアを組んで“自分達の苗”を育てることで、責任感や植物への思いやりが育つ

子どもたちの食への興味・関心を持たせるため、食に関する年間計画に「凧々子栽培」を採用した。苗の数やスペース等を考慮し、毎日世話ができるプランターと、収穫量が期待できる畑の両方で栽培することにした。

プランターへの定植は、雨天のため屋内遊戯室で実施した。栽培に詳しい地域の方から植え方を教えていただいた後で、ペアを作って2人で1本の苗を植えた。ペアで声をかけ合いながら、教えられたように苗をやさしく扱い、「早く大きくなあれ」と声をかける姿も見られた。自分の苗ができたことで、責任をもって育てていくんだ、という意識が芽生えた。



畑栽培でも、地域の方や保護者に協力してもらいながら、定植、草取り、観察等を行った。作業を通して、土の硬さや周りで見つけた虫など、プランター栽培との違いにも気づくことができた。



## 農業高校生とのクッキング活動が収穫の目標！ 交流によって共に学び合う！

収穫したトマトを使って、近隣にある農業高校とのクッキング活動を計画した。子どもたちにも計画は伝えていたので、トマトが色づいて収穫が始まると、子どもたちは高校生とのクッキング活動を心待ちにするようになった。

クッキング活動では、園児がトマトの皮をむいたり、ピザソースを塗ったりと簡単な作業を行い、高校生がトマトを切ったり、火を扱う作業を担当してくれた。

高校生がやさしく声をかけながら作業の仕方を教えてくれたので、園児も楽しく料理に参加することができた。会食する頃には皆、自分の思いを伝えられるようになり、トマトが苦手な子どもも、自分で作った料理はおいしく食べるすることができた。

## 高校生提案、園児絶賛！ 簡単「トマトキャンディー」の作り方



【材料】トマト・・・人数分

砂糖 1カップに対し、水 100ml

【作り方】

- ①鍋に砂糖と水を入れて弱火にかけ、焦がさないようかき混ぜながら砂糖を溶かす。小さい泡がブクブクして沸騰してきたら、少しとろみが出るまでかき混ぜ、火を止める。
- ②熱いうちに串に差したトマトをからめる。すぐに氷水に入れて餡が固まったらできあがり。

## 取り組みの裏話・・・

### 広島県立西条農業高校との交流

広島県立西条農業高等学校は、子どもの足でも園から15分程のところであり、以前から高校生の実習を受け入れる等で交流がありました。今年度は食に関する年間計画に加工用トマトの「凧々子」を採用したので、収穫した後の加工方法を検討していたところ、西条農業高校との合同クッキングを 思いつき、協力を依頼しました。

高校生にとっては、①幼児教育に必要な知識と技術を進んで習得する意欲と実践力を養う②幼児を安全に楽しませることを考え、行動する力を身につける機会、としてご快諾をいただきました。

実習メニューや進行については、高校生からたくさんアイデアを提案してくださり、園児どうしたら喜ぶかという視点が盛り込まれた、楽しい交流 活動の計画ができあがりました。



活動当日、西条農業高校3年生39名が出迎えてくれ、初めにグループに分かれて園芸農場を見学させていただきました。さまざまな野菜や果物になっているようすを見学しながら、「これは何の野菜？」「どうしてブドウに白い袋がついているの？」等、自然と会話が生まれ、ミニトマトの収穫・試食もさせてもらう頃には、すっかり打ち解けて、皆、高校生との関わりを楽しめるようになっていました。

続いて調理室に移動し、園で収穫したトマトを使って、トマトソースとギョーザの皮のピザ、トマトキャンディーを作りました。高校生から「次はこれをやってね。」等、やさしく教えてもらいながら一緒に作業してもらえたので、料理も楽しむことができました。自分たちで育ててきたトマトであることを意識させていたこともあり、トマトが苦手な子ども、喜んで食べることができました。

## 子どもたちの気付き、実践の成果

### 専門家による栽培指導と五感を刺激する観察で、栽培への関心を高める

「凜々子」の苗との出会いの日、地域の JA の方を講師に迎えて、トマトがジャガイモやピーマンと同じナス科の仲間であることや、トマトの赤い色素「リコピン」の栄養等の話をしていただいた。



「これは何の苗でしょう？」との問いに、「もやし」「きゅうり」等、自分が知っている野菜の名前が挙がったが、実際に苗を触ったりにおいを嗅いだりと五感を使って観察すると、「トマトのにおいがする！」と発見し、友達と喜び合っていた。トマトを植えるだけでなく、トマトの話や観察も行ったことで、トマトへの興味・関心が高まり、栽培活動のよいスタートが切れた。



### 毎日の水やりと観察による「ふしぎ発見」がクラス共通の喜びに！

定植の翌日から毎日ペアでプランターに水やりをする時間を設けた。プランターは教室の前に置き、開花や着果などの変化に気づきやすいよう工夫した。登園時には親子でトマトの変化を話す姿も多く見られた。

クラスの活動として全員で取り組んだので、子どもたちはペアで声をかけ合い、自主的に水やりができるようになった。また、毎日続けたことで、小さな変化や不思議に思ったことなどを報告し合うようになり、栽培への関心が更に高まっていった。



### さまざまな人との交流によりコミュニケーション力が育つ

今回の活動は、食育活動の一環として年間計画を立てたが、活動を通してPTAや学校評議員、近隣の農家の方、西条農業高校生、教職員等、いろいろな人と交流する機会を取り入れるようにした。初対面の方でも、作業を通して自然と会話が生まれ、自分の思いを

伝えられるようになり、人と関わる力が育ったと感じる。また、食べ物の栽培や調理、配送など食事に関わる人々に感謝する気持ちが芽生えるきっかけにもなった。

### 先生から一言！ 実践を通して

年度当初はトマトが苦手な子どもも多く、トマトの栽培にはあまり関心を示さない姿も見られました。ところが、毎日水やりを続ける中でトマトが実をつけ、赤く色づいていく姿を見るうちに、「食べてみようかな」という意欲も一緒に育っていったのだと思います。トマトキャンディやピザソースは、トマトが苦手な子どもも喜んで食べていました。やはり自分で育てた野菜は、買ったものとは違い、特別な存在になるのだと改めて感じました。

保護者の方からも、家の畑の手伝いをよくするようになったという声が聞かれました。今回の活動を通して、子どもたちの栽培への興味関心が高まり、園内だけでなく、家庭でも自ら関わろうとする意欲につながったのだと思います。



### 受賞理由



年間計画に多くの人たちとの交流を盛り込んだことが、子どもたちの大きな成長につながったんだね。特に、農業高校との取り組みは、高校生にとっても、園児にとっても、充実した楽しい学びの場となっているのが素晴らしい！農業高校ならではの農場見学や収穫体験など、クッキング以外にも楽しいイベントを用意してくれた高校生にも感謝ですね！地域の方たちの温かいサポートを受けながら、日々活気あふれる取り組みを行っている御菌宇幼稚園のようすが、レポートから伝わってきました。